



2010年5月より米国セントルイス市にあるワシントン大学医学部脳神経外科に研究留学しています。

セントルイスはミズーリ州にあり、最も近い大都市であるシカゴからは約500 kmに南西にあります。ミシシッピ川とミズーリ川の合流地点に位置し、古くは水上交通の要所として栄え、アメリカで初めての万国博覧会そしてオリンピックが開催されました。かつては西部開拓の玄関口であり、その象徴としてゲートウェイアーチという建造物があり観光名所となっています。また、研究試薬等を製造するシグマやパドワイザーのアンハイザーブッシュなど、有名企業の本社も幾つかあります。メジャーリーグのセントルイスカーディナルスは10度のワールドシリーズ優勝を誇る名門チームで地元市民に愛されており、最近では田口 壮選手が在籍していた2006年に優勝しています。また最近では成績が低迷していますが、セントルイスにはアイスホッケー (NHL) のブルースやアメリカンフットボール (NFL) のラムズもあります。気候はアメリカ中西部でも比較的南部に位置していますので、夏は暑く30°Cを越える日々が4か月ほど続き、冬は非常に寒く同じく4か月ほど続き、過ごしやすい春秋は2か月ずつだそうです。ちなみにセントルイスは、全米で毎年ワースト3に入るほど犯罪が多いそうですが、安全な地区に住んでいるためかこれまで身の危険を感じたことはありません。

ワシントン大学と聞くと、ワシントン州シアトルにある州立大学の University of Washington (通称 UW) を思い浮かべる人もいるかもしれませんが、セントルイスにも私立大学の Washington University

in St. Louis (通称 Wash U) があります。このセントルイスにあるワシントン大学医学部は内科臨床の実践書「ワシントンマニュアル」で知られ、ハーバード大学、ジョンズホプキンス大学に続く全米医学部ランキング3位に位置し、附属病院である「Barns Jewish Hospital」も常に全米トップ10にランキングされているそうです。また17人のノーベル医学賞を輩出した基礎研究のレベルは非常に高く、優秀な研究者が世界中から集い、研究に勤しんでいます。

さて現在私は医学部脳神経外科に所属し、Dacey 教授および Dietrich 先生のラボで脳細動脈の血管調節性の解明を中心に脳内微小循環の研究を行っています。主にラットの脳内を走行する40-100  $\mu\text{m}$  の細動脈を摘出し、ガラス製のマイクロピペットでカニューレーションし、種々の条件または薬剤投与下での血管反応を観察しています。初めの数カ月はカニューレーションおよびシステムの習熟に費やし、現在ようやく自分の研究が始まりデータが取れ始めたところです。

アメリカで生まれて初めての海外生活を過ごしており、こちらに来て5か月近くが経ちました。センスの問題か年齢の問題か、英会話は全く上達せず苦労しています。しかし満足に会話もできない私でも、何とか生活ができてしまうアメリカの「大きさ」を渡米してから感じます。建国から多種多様な人種や文化を受け入れてきた歴史があるためでしょうか、同じような経験・苦労をしている日本人・外国人が助けてくれることがあったり、またアメリカ人も多くの外国人を受け入れているのに慣れてるためか、根気よく付き合ってくれる人もいます。体型、食事の量、片側6車線もあるフリーウェイなどアメリカには大きなものが沢山ありますが、それ以上に生活する人々の異人種・異文化に対する大きな寛容さや余裕を感じています。

最後になりますが、留学というこのような貴重な機会を与えてくださった脳神経外科教授・本郷先生、医局が人員不足であるなか僅少とはいえ私の抜けた穴をサポートしてくださっている多くの医局の先生方に厚く感謝申し上げます。また現在もこの留学生活に同伴し支えてくれている妻と子供達に心より感謝の意を表します。

(2010年9月下旬)

(信州大学医学部脳神経外科講座所属)